## ○ 本校の概要

本校は児童数271名、うち通常学級 (258名) 11学級、固定級 (13名) 2学級を有している。本校学区域は、旧東海道沿いに発展した街と国道沿いに林立するマンションで構成され、新旧の住民が調和して共生している地域である。また、平和の森公園と隣接していることから自然環境に恵まれた地域でもある。 今年度は、太田教育ビジョン プラン1 「未来社会を創造的に生きる子供の育成」に重点を置き、「おおたの未来づくり科」新設に向けた研究実践校として研究を行っている。研究を通して「ブルートライアングルプロジェクト」を軸に「地域の創生」にチャレンジするとともに、児童にボランティアマインドをはぐくみ、生命尊重の心や態度、持続可能な社会を実現する社会参画意識の基礎を育てていく。

大項目 目標	学校関係者評価の結果の根 <sub>取組内容</sub>	- X = X = X	取組指標	取組評価	目標に対する成果技	旨標	成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供のプラン1 未来社会を創造的に生きる子供のコケ能活とるれ会し対ど自付ミーカ用も力かのな応も信けまーカーをまいまである。 シ報、きこ社にに子とに。	外国語教育指導員を効果的 外国の方々とのコミュニー 力の育成等を図っている。	的に活用し、 ケーション能 2:60%以上	が回答した。		見童アンケート項目 「学習が楽しい」に 対し、「よく当ては まる」と回答した児				А		
	論理的、科学的な思考力の				童の割合。						
	た体験活動や理数授業等	り」を生かし 2・6.0%以上	の教員が行った。			3 : 85%					
	学力の定着と学ぶ意欲の	4:設置教室を 伸長を目指 <del>3:85%以工</del>	使用する全正規教員が週1回以 の正規教員が週1回以上活用し	Ŀ		以上			В		
	- する。	た授業を実施 <del>2:00%以上</del> 1:60%未満	の止枕紋貝が週1凹以上活用し								
	こ 他者の人権を尊重する人	権教育の推進 4:対象となる	全学級(全教員)で行った。			2 : 80%					
		等を活用した 2:60%以上 1:60%未満	で行った。			以上			С		
	レ 体力テストの結果を踏ま: 休計画を作成し、計画に		った。 の教員で行った。								
	担等で「水一水仙」生	1:60%未満				1: 80% 未満					
	将来の地域住民として本地 境や伝統等を理解・尊重	地域の目然境 する授業を実 3:80%以上	できた」と全教員が回答した。 の教員で行った。 の教員で行った。	- 1		>1< /m/		D			
	施する。	1:60%未満				4:			╂		
プラン2 学力 児一のをか ・ひぶめ学 高な学 のをか	学習カルテを基に児童・9 し、一人ひとりの学習の 習方法について、指導す	生徒と面談 3:80%以上 つまずきや学 3:60%以上	で行った。		「授業がよく分かる」に対し、「よく 当てはまる」と回答	90% 以上			А		
	算数・数学到達度をステ	1:60%未満4:学期に2~3	回知らせた。		した児童の割合。						
	走 チェックシートで児童・st	生徒、保護者 2:年度間に1	回は知らせた。			3: 85% 以上					
	次党翌補助員第による質数	1:お知らせで 4:対象元里 - 数学・英語 3:80%以上	土促への山涌 で王牧貝が関さか!	,			96 E	В			
	NE の補習を実施する。	2:60%以上	の教員が働きかけた。 の教員が働きかけた。			2 : 80%					
の定着させ	長業改善推進プランを、打	4:「おおむね	できた」と全教員が回答した。	-		以上			С		
向   9。   上	す。	2:60%以上 1:60%未満	であった。			1:					
	児童が主体的に学習に取	り組めるよう 3:80%以上				80% 未満					
	に指導の工夫を行う。 	2:60%以上   1:60%未満   点に立った生 4:全教員が行	であった。			4:			▙		
プラン3 豊かな心の育成どと感定有をと他尊をなへ満な子ひ義肯己どと自を心る来にか子の意味ののち心を感のである。 豊かな心のない かい	活指導の充実により、社会	会のルールや 3:80%以上 うとする意識 2:60%以上	の教員が行った。		「自分から進んで挨 災できた」で「よく	60% 以上					
		1:60%未満とした研修 4:学期に2~	であった。 3回(年間6回)以上行った。		当てはまる」と回答した児童の割合。						
	コ や、国、都及び区の資料 業等を行う等道徳指導充	を活用した授 実のための取 2:年度間に10 2:4 2:4 2:4 2:4 3:2 3:2 3:2 3:2 3:2 3:2 3:2 3:2 3:2 3:2	回以上行った。			3:					
	学校生活調査(メンタル・	1:実施しなか	心かできた」と主教貝が凹合し			50%以上			В		
	る ス旧音・生徒に対して組織	<ul><li>症状のみられ 3:80%以上</li><li>織的に対応す 2:60%以上</li><li>1:60%未満</li></ul>	の教員が回答した。								
	か 学校いじめ除止其本主針	に沿って、い 4:   粗	心ができた」と主教員が凹合し の教員が回答した。			2 : 40%					
	取組を実施する。	2:60%以上 1:60%未満	の教員が回答した。 であった。			以上			С	С	
	現 崔 問題行動,不為校問題等)	- 4.4.4.7 旧 的に対応した。	に対して必ず会議を実施し、組織	哉							
	エ エルに向うもう ハ.	trata	に対してのより安藤を実施しな に対してほとんど会議を実施せ			1 : 40%					
ぐくみま す。		ず、組織的な対	応をしなかった。 できた」と全教員が回答した。			未満			D		
	生活指導のきまり「大五2 ド」を定着させて、児童( 向上させる。	の規範意識を 2:60%以上	が回答した。								
プスポーツに	_ 「早寝・早起き・朝ごはん		った。		見童アンケート項目 「体力がだんだんつ	4 : 80%			╂		
<sup>ラ</sup> 親しむ心 育成や、	カー対し、望ましい生活習慣(	徒や保護者に 3:80%以上 についての意 2:60%以上 1:60%未満	の教員で行った。		いてきたと思う」に 対し、「よく当ては	3:70%			А		
4 体力の向上と健康 同動着力どわ康る上ま ル智にの、た増意をす 地質よ向生っ進識め。 とは が、のる上涯でをの の増進	<b>定</b> 給食指導及び教科等におり	ける指導を通 4:全教員で行			まる」と回答した児 童の割合。						
	した「食育」を推進する。	2:60%以上				以上			В		
		翌暦の確立を 3:80%以上	の教員で行った。			2: 60% 以上			С		
	á	1:60%未満	の教員で行った。 であった。 できた」と全教員が回答した。			1 :					
	美間体育「元気もりもりた 一 用し、運動好きの児童を	タイム」を沽 2.80%以上	が回答した。			60%			D		
	体力向上を図る。	1:60%未満			呆護者アンケート項	4:			╊		
プラ	授業公開日の授業評価を、 業改善に生かす。	2:60%以上	の教員が回答した。 の教員が回答した。		目「学校は一人一人 の子どもに基礎基本 が定着するよう、指	90%以上			А		
ン 5 児童・生 が安全・	上 授業改善セミナー等の研付	多成果を生か <u>2. 労物に1回</u>	であった。 3回(年間6回)以上行った。 (年間3回)以上行った。		―― 算方法の工夫に努め ている」に対し、 「当てはまる」や	3 ·	3: 80% 以上		В	3	
魅心に学校	世 研修等を実施しOJTを充実	表を行う校内 g. 年度問に10	国以上行った。		「やや当てはまる」 と回答した割合。						
カある教育環境づくり活めの上教つす。		4:「おおむね	できた」と全教員が回答した。 の教員が回答した。				1:70%		С		
	-	1:60%未満				2 : 70%					
	を校内委員会等を確実に実施		回行った。	<b>∃ </b>		W.L					
	おける特別支援教育を推議	1:実施しなか	った。			1 : 70%					
	校内研究会や他校の研究の研事前・事後検討会などの	発表会、凶教 3・学期に2~	3回程度参加した。			未満			D		
-y	業力向上に努める。	1:参加しなか・子校計画寺 4:月1回以上更	った。 新した。		保護者アンケート項				╊		
ラ 学校・家 ラ 庭・地域が	の基本情報、児童・生徒のをホームページ等で公開だるとにより、積極的に情報	及び更新する 2:学期1回以上 銀を発信す 2:学期1回以上	更新した。	∄	目「学校は、学校行 事などに地域の協力 を得ている」に対				А		
なら担う役割	地域教育連絡協議会においた。	1: 更新しなかっ	提供した。		し、「当てはまる」 や「やや当てはま る」と回答した割 合。	3:					
ひ どを明確 て学し、地域	て、評価に必要な学校の情報には、適正な評価を受け	情報を適切に 3:ののでは明	を提供しなかった。			80% 以上			В		
と校開かれたも・ 育の実現	を 学校支援地域本部と連携・	4:学期に2~3 3:学期1回以上	回行った。 :行った				3				
に家 目指しま 進庭 す。また	て、地域力を生かした特1 動を実践する。	巴の句祭 月 泊 2:年1回以上 1:実施しなか	行った。 った。			2: 70% 以上					
め・相互の連	集 地域や保護者による読み! 施し、保護者や地域と共同	司」て子ども、 3:字册に2~3	回行った。	∄ ]		以上			С		
る地を深め、する数が、する数ができます。	C	2:学期1回以_ 1:実施しなか		$\perp$		1 : 70%					-
「「な仕組み」 体ります。	<u>を</u>					未満			D		
14									╂		
		で定めた成果指標によっ									